



北海道神経難病研究センター
2021年度活動報告

第10号

(2021年4月～2022年3月)

北海道神経難病研究センター

目 次

1. 2021年度活動報告について
2. 北海道神経難病研究センターの概要
3. 2021年度活動報告
 - (1) 神経難病臨床研究部門
 - (2) 神経難病リハビリテーション部門
 - (3) 神経難病看護・ケア部門
 - (4) 神経難病医療相談・福祉支援部門
4. 北海道神経難病研究センター主催講演会
神経難病セラピストのための座談会
第10回北海道神経難病リハビリテーション研究会講演会

1 2021年度活動報告について

北海道神経難病研究センターは、平成23年7月に神経難病に関する病態解明および学術的治療研究、看護をはじめとしたコメディカルによる多角的臨床研究、神経難病患者を中心とした医療環境に対する調査・研究を行い、これら神経難病に対する総合的かつ包括的な研究を推進し、北海道における神経難病医療と環境の発展を図ることを目的に設立した。

研究センター全体としての活動は、平成23年度活動報告、平成24年度活動報告、平成25年度活動報告、平成26年度活動報告、平成27年度活動報告、平成28年度活動報告、平成29年度活動報告、平成30年度活動報告、平成31年度は2019年度活動報告とし、その後、2020年度活動報告、今回、引き続き、2021年4月～2022年3月までの活動を2021年度活動報告としてまとめました。

2020年からの新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、人が集まる会議・会合は控えられ、講演会もオンライン講演会となりました。

各部門での活動のほか、北海道神経難病リハビリテーション研究会の第10回北海道神経難病リハビリテーション研究会講演会をオンライン講演会として開催し、神経難病緩和医療研究会講演会は新型コロナウイルス感染症のため中止されました。

これまでの多方面の方々からご支援賜りましたことを深謝申し上げますとともに、今後とも引き続きご指導、ご鞭撻下さりますよう、お願い致します

2022年4月

専務理事・センター長 森若文雄
代表理事 濱田晋輔

3 2021年度活動状況：

(1) 神経難病臨床研究部門

神経難病臨床研究部門は、医務部が各部と連携して活動している。【研究業績】、【社会活動】、【教育活動】にわけて報告する。

【研究業績】

<論文>

1. Hatano T, Kano O, Sengoku R, Yoritaka A, Suzuki K, Nishikawa N, Mukai Y, Nomura K, Yoshida N, Seki M, Matsukawa MK, Terashi H, Kimura K, Tashiro J, Hirano S, Murakami H, Joki H, Uchiyama T, Shimura H, Ogaki K, Fukae J, Tsuboi Y, Takahashi K, Yamamoto T, Yanagisawa N, Nagayama H. Evaluating the impact of adjunctive istradefylline on the cumulative dose of levodopa-containing medications in Parkinson's disease: study protocol for the ISTRA ADJUST PD randomized, controlled study. BMC Neurol. 2022 Mar 3;22(1):71.

<学会発表>

1. Tashiro J, Ohtsuka H, Hirotsu M, Iida Y, Hamada S, Soma H, Nonaka M, Honma S, Takei A, Moriwaka F, Tashiro K. Long-term follow-up of a case with primary orthostatic tremor. 第62回日本神経学会学術大会, 京都, 2021年5月19~22日.

【社会活動】

<医療講演会・シンポジウム>

1. 濱田晋輔：神経疾患と慢性便秘症～パーキンソン病を中心に～神経内科便秘治療戦略を考える WE 講演会 in 北海道, 2021/04/15
2. 本間早苗：パーキンソン病診療に関する講演、エーザイ株式会社, WEB 配信, 2021/04/21
3. 濱田晋輔：パーキンソン病におけるリハビリテーションと薬物療法、PD Expert Meeting in 北見, 2021/4/22
4. 田代 淳：姿勢異常を呈したパーキンソン病の診療経験—薬物治療との関

- 連から一, Parkinson Disease Update Seminar Online, 2021/6/10
5. 中城雄一：パーキンソン病治療におけるリハビリテーション（理学療法士の立場から），第2回 Takeda Parkinson's Disease Web Symposium 2021 in 北海道，2021/6/22
 6. 飯田有紀：パーキンソン病治療におけるリハビリテーション（理学療法士の立場から），第2回 Takeda Parkinson's Disease Web Symposium 2021 in 北海道，2021/6/22
 7. 田代 淳：MAO-B 阻害薬による初期から進行期にわたるパーキンソン病の治療経験，サファナミドユーザーズミーティング in 北海道，2021/7/7
 8. 野中道夫：「パーキンソン病と共に生きることを医療者として支援するために：薬物治療とリハビリを中心として」第1回 パーキンソン病へのトータルケアを考える会 in web，2021/7/8
 9. 田代 淳：パーキンソン病の診療とリハビリテーションー最近の話題ー，パーキンソン病リハビリテーションミーティングオンライン，2021/7/9
 10. 本間早苗：パーキンソン病「非運動症状への取り組み」，第2回 パーキンソン病へのトータルケアを考える会 in web，2021/8/4
 11. 田代 淳：オピカポンを使用したパーキンソン病症例．パーキンソン病のCOMT 治療を考える会，2021/8/26
 12. 本間早苗：「パーキンソン病の非運動症状について」北海道 WEB 市民公開講座～パーキンソン病・レビー小体型認知症ってどんな病気??～，大日本住友製薬，2021/08/28
 13. 野中道夫：「パーキンソン病に似ているけれど違う病気の話」第3回パーキンソン病へのトータルケアを考える会 in web ，2021/08/31
 14. 田代 淳：パーキンソン病治療におけるドパミンアゴニストの役割ハルロピテープ使用例を中心に．協和キリン株式会社社内勉強会，2021/9/7
 15. 田代 淳：パーキンソン病における非運動症状の意義と診療．PD Expert Meeting in 北見，2021/9/9
 16. 野中道夫：「高齢者の諸症状に対する漢方治療」：小樽薬剤師会生涯教育研修会 2021/9/17
 17. 野中道夫：「なぜ食べ物が気管に入ってしまうのか：わかりやすい誤嚥のはなし」第4回 パーキンソン病へのトータルケアを考える会 in web, 2021/10/5

18. 田代 淳：パーキンソン病の運動症状. PD ハウス研修, 2021/10/5
19. 濱田晋輔：パーキンソン病患者の栄養管理, MSA-PD スキルアップ Web セミナー, 2021/10/8
20. 飯田有紀・鍋倉智子：パーキンソン病の嚥下障害～評価・訓練アプローチの実施、ケースを通して～, 第5回パーキンソン病へのトータルケアを考える会 in web , 2021/10/28
21. 田代 淳：パーキンソン病診療を考える会～ロピニロールを再考する～ハロロピテープをどう使うか, 2021/11/5
22. 中城雄一：パーキンソン病のリハビリテーション多職種連携から考えること, 第6回パーキンソン病へのトータルケアを考える会 in Web, 2021/11/24
23. 坂野康介：パーキンソン病リハビリテーションにおける患者さんへの教育と生活指導, 第6回パーキンソン病へのトータルケアを考える会 in Web, 2021/11/24
24. 小室侑子：パーキンソン病の自主トレーニング, 第6回パーキンソン病へのトータルケアを考える会 in Web, 2021/11/24
25. 小林陽子：パーキンソン病と共に生きる患者様、家族、支援者の皆さまが知っておきたい社会保障制度, 第6回パーキンソン病へのトータルケアを考える会 in Web, 2021/11/24
26. 野中道夫：「嚥下のメカニズム」, パーキンソン病 Web 講演会, 2021/12/13
27. 小林陽子：パーキンソン病と共に生きる患者様、家族、支援者の皆さまが知っておきたい社会保障制度, 第7回パーキンソン病へのトータルケアを考える会 in Web, 2021/12/15
28. 野中道夫：「高齢者の諸症状に対する漢方治療」：北海道薬剤師会室蘭支部生涯学習研修会 日本薬剤師研修センター認定生涯教育講座, 2022/2/16
29. 野中道夫：「なぜ食べ物が気管に入ってしまうのか：わかりやすい誤嚥のほなし パーキンソン病患者さんの診療に生かす」神経疾患リハビリテーションシリーズ web 講演, 2022/3/15

<講演会座長>

1. 濱田晋輔：パーキンソン病のトータルケアを考えるー多職種連携の観点からー2021/4/14
2. 濱田晋輔：各医療機関におけるPD医療の取り組み, Hokkaido

Parkinson' s Disease Crosstalk Symposium 2021, 2021/10/19

3. 廣谷 真：第5回パーキンソン病へのトータルケアを考える会 in Web
4. 濱田晋輔：NMOSD Clinica Seminar, 2021/12/8
5. 廣谷 真：NMOSD Clinica Seminar, 2021/12/8

< 検診・医療班派遣 >

1. 濱田晋輔：令和3年度利尻礼文在宅難病患者訪問検診、稚内保健所、
2021/9/15-17

【教育関係】

< 講義 >

1. 武井麻子・本間早苗・野中道夫：札幌医療リハビリ専門学校夜間部講義、「1) 神経内科総論 2) 脊髄小脳変性症 3) 多系統委縮症 4) 高次脳機能障害 5) 遺伝子性末梢神経障害 6) 自己免疫性疾患（中枢性） 7) 自己免疫性疾患（末梢神経） 8) 筋疾患（筋ジストロフィー） 9) 筋疾患（筋炎） 10) 絞扼性神経障害」、2021/9-2022/3
2. 武井麻子：視覚支援学校講義、「高次脳機能障害と視覚」、2021/11/1
3. 中城雄一：北海道札幌視覚支援学校、令和3年度視覚障がい特別支援学校専攻科、「リハビリテーション医学」

(2) 神経難病リハビリテーション部門

理学療法領域、言語聴覚療法領域、作業療法領域での活動を報告し、【研究業績】、【教育活動】、【社会活動】と2021年度医療用HAL実施実績にわけて報告する。

【研究業績】

<論文>

1. 坂野康介：パーキンソン病の最新知見と効果的な理学療法「パーキンソン病のHoehn and Yahr 重症度分類Vの理学療法」. 理学療法ジャーナル 55(11), 1200-1206, 2021
2. 成田雅：公益社団法人日本理学療法士協会ガイドライン第2版, 2021/10/25

<学会発表>

1. 鶴田知也：CONUT法を用いた在宅パーキンソン病患者の栄養状態に関する調査, 第36回日本臨床栄養代謝学会, 2021/7/21・22
2. 徳永典子：QOL評価の中で自己の捉え方が変化したパーキンソン病患者～SEIQoL-DWを用いて～, 第9回日本難病医療ネットワーク学会学術集会, 2021/11/12・13
3. 野田貴暉：パーキンソン病患者の感覚再重み付け能力と疾患重症度の関連性の検討, 第42回札幌市病院学会, 2022/3/1
- 4.

<講演>

1. 太田経介：パーキンソン病の姿勢異常に対するリハビリテーション—首下がりを中心に—. エーザイ株式会社, 2021/6/10
2. 坂野康介：パーキンソン病の理学療法. 北海道理学療法士会日胆支部研修会, 2021/6/26
3. 坂野康介・成田雅・太田経介：技術講習会「パーキンソン病症例に対する理学療法—クリニカルリーズニングに基づく理学療法—」. 日本理学療法士協会, 2021/8/29
4. 藤田賢一：Hokkaido Parkinson's Disease Crosstalk Symposium 2021「パーキンソン病治療における言語聴覚士の取り組み」 2021/10/19
5. 鍋倉 智子：北網圏パーキンソン病へのトータルケアを考える会 inWEB 「パ

- ーキンソン病の嚙下リハビリテーションー評価・訓練アプローチの実際
ケースを通してー 訓練編」 2021/10/28
6. 中城雄一・坂野康介・小室祐子：パーキンソン病のトータルケアを考える会。
協和キリン株式会社, 2021/11/24
 7. 中城雄一：Takeda Parkinson's Disease Web Symposium 2021 in 北海道
「パーキンソン病のリハビリテーション理学療法士の立場から」2021/6/22
 8. 中城雄一：CSL ベーリング 社内レクチャー
「実際のリハビリと診療報酬の基礎」 2021/10/20
 9. 檜村祐哉：2021 年度支援者向けサロンあうる
「神経難病におけるコミュニケーション支援」 2021/11/12
 10. 太田経介：Neuroscience Web Seminar
「パーキンソン病のリハビリテーションにおける多職種連携」 2022/2/9

【教育関係】

<講義>

1. 本間冬真：作業療法概論Ⅲ. 札幌リハビリテーション専門学校, 2021/6/25
2. 坂野康介：神経難病のリハビリテーション. 北海道リハビリテーション大学
校, 2021/11/8・29
3. 鹿野咲：神経難病のリハビリテーション. 札幌リハビリテーション専門学校,
2022/1/21
4. 太田経介：クリニカルリーズニングに基づくパーキンソン病の理学療法
ー私達には何ができるかー. 函館医師会看護・リハビリテーション専門学校,
2022/3/4

<臨床実習受入>

北祐会神経内科病院
理学療法

1. 日本医療大学・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1名
2. 北海道医療大学・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2名
3. 北海道科学大学・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1名
4. 北海道文教大学・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1名
5. 北海道リハビリテーション大学校・・・・・・・・ 1名

6. 札幌リハビリテーション専門学校・・・1名

7. 畿央大学・・・・・・・・・・・・・・1名

作業療法

1. 北海道文教大学・・・・・・・・・・・・1名

2. 札幌医学技術福祉歯科専門学校・・・・・・・・1名

3. 北海道リハビリテーション大学校・・・・・・1名

4. 日本医療大学・・・・・・・・・・・・・・1名

5. 北海道医療大学・・・・・・・・・・・・・・1名

言語療法

1. 北海道医療大学・・・・・・・・・・・・・・1名

2. 札幌医学技術福祉歯科専門学校・・・・・・・・1名

札幌パーキンソン MS 神経内科クリニック

理学療法

1. 北海道医療大学・・・・・・・・・・・・・・1名

【社会活動】

<検診>

1. 成田 雅：利尻島・礼文島難病検診. 2021/9/15-17

2. 藤田 賢一：北海道総合在宅ケア事業 苫前町 2021/11/24～25

<社会活動・ボランティア>

1. 五十嵐碧・小林拓司・遠藤夢叶：北海道医療大学&パーキンソン病友の会札幌ブロック交流会. 2021/11/27

<パーキンソン病パンフレット作成>

今日からできる！生活を楽にする秘訣！パーキンソン病と共に暮らす ―基本動作編・日常生活動作編・家事動作編・発声編・嚥下編―

監修：太田経介・飯島健介・高橋優花・有馬恭平・鍋倉智子・檜村祐哉・中城雄一・濱田晋輔・森若文雄

<2021 年度医療用 HAL 実施実績>

北祐会神経内科病院・札幌パーキンソン MS 神経内科クリニック

筋強直性ジストロフィー	8名
脊髄性筋萎縮症	1名
球脊髄性萎縮症	2名
筋萎縮性側索硬化症	4名
シャルコー・マリー・トゥース病	4名
封入体筋炎	1名
ネマリンミオパチー	2名
進行性核上性麻痺	1名
脊髄小脳変性症	9名
慢性炎症性脱髄性多発神経炎	1名

(3) 神経難病看護・ケア部門

院外、院内研究会参加、看護部教育、認定看護師研修、対外活動を報告する。

1. 【研修会参加状況】

【院外研修】

新型コロナウイルス感染対策にて、研修参加なし

【院内研修】

日 時	研修テーマ	講 師	主 催	参加数 (看護職/全体)
2022年1月	新型コロナウイルス感染症をのりこえるための説明書オミクロン株編（資料閲覧）	諏訪中央病院 総合診療科 玉井 道裕先生 作成	院内感染対策委員会 医療安全管理委員会	全員

【看護部教育】

日 時	研修テーマ	参加者	担 当
2021年 4月1日～2日 5日～6日	入職時オリエンテーション ・各部署 各委員会の役割と活動内容 ・看護記録 ・感染リンク ・セイフティマネジメント ・退院支援 ・電子カルテ ・医療機器 ・疾患講義 (PD、SCD、MS、ALS 末梢神経障害) ・コミュニケーション ・フィジカルアセスメント	4名	看護部長 各委員長 教育委員

2021年5月1日	ラダー I 1ヵ月を振り返って	2名	教育委員
2021年10月6日	ラダー I 救急看護	1名	教育委員
2022年3月	ラダー I KYT	1名	教育委員
2022年3月	個人情報 日常生活に関わる業務 看護補助者業務の理解	看護助 手全員	ヘルパー 脅威幾 システム

2. 【対外活動】

(実習受け入れ)

年 月 日	学校名 実習内容	受入数
2021年10月26日・27日	天使大学1年 基礎看護学臨地実習 I	5名
2021年11月2日・4日	天使大学1年 基礎看護学臨地実習 I	4名
2021年9月27日～10月15日	札幌保健医療大学3年 高齢者看護	中止

(4) 神経難病医療相談・福祉支援部門

【年間事業計画】

1. 医療機関訪問

他医療機関との連携が円滑に行えるように当部署の役割分担を院外に周知するという目的と、医療機関の情報収集と連携強化を行う目的で医療機関を選定し、訪問する予定だったが、今年度も COVID-19 感染の流行の影響により、実施が困難と判断した。訪問という手段をとることが出来なかったが、目的を果たすために、日常的に連携してくださっている医療機関等には文書や電話等の手段をとり、当院・当部署の役割について周知を行い、患者様に関する情報収集は継続して行うことができた。

次年度以降は、新病院設立と病院名変更のアピールも含めて医療機関との連携強化が行える方法を検討したい。

2. サロン活動

COVID-19 感染症による感染対策の継続が予測されており、対面での活動自粛を踏まえて、各チームで担当を決めて活動に励んだ。また、当院ホームページ（以下 HP）内にサロン活動のアピールをする目的で専用ページを開設する準備も開始した。

患者・家族向けのサロン

テーマは「新病院の設備等の案内」と「各部署の役割について」、各部署へインタビューを行い『広報誌あうる』を作成した。10月と3月に院内配布とサロン参加歴のある患者様への郵送、HPへの掲載という方法で情報発信を行った。それぞれ、100～124部の配布と111～131件のHP閲覧という結果がみられた。当院職員と患者様、患者様同士の交流という場の提供は出来なかったが、次年度も様々な手段で活動を継続する方法を検討していく。

在宅療養支援者向けのサロン

11月12日18:00～19:30に初めてのオンラインサロンを試みた。テーマを『神経難病におけるコミュニケーション支援』とし、当院の言語聴覚士・難病看護師・社会福祉士を講師としてZOOMでの講義・意見交流会を行った。また、2月には、報告も兼ねて『あうるNEWS』を発行し、参加事業所や案内をした居宅介護支援事業所や訪問看護ステーションに送付した。今回のオンラインサロンは、

運営側の不慣れな点もあり今後の課題も見いだせたが、感染対策にも有効で準備などの負担も軽減にも繋がったと評価している。

COVID-19 感染症の影響により、限られた環境の中で、神経難病患者さんと支える人のためのサロンを開催し、一人でも多くの方にサロン活動に参加していただけるように企画を検討していきたい。

3. 院内研修・研究活動

今年度も例年通りの集合研修の開催を予定していたが、COVID-19 感染の影響により、実施が困難であると判断し、前年度と同様に資料配布という形で情報発信し、院内研修を行った。

当院で診療を受けている患者様に必要で、当部署でしか発信できないもの・当部署の役割を発揮できるようなものを念頭に、テーマの選定を行った。今年度は「当院患者の流れについて／地域連携室について／入退院支援室について／医療相談室について」という内容の情報を発信し、アンケート結果からは発信した内容の理解が得られたと評価している。

また、下記の講義・講演の依頼もあり、協力をさせて頂いた。

月 日	担当者	名 称
R3 年 5 月 22 日	河野 光香	新人研究支援事業事前研修「研究について」 (一社：北海道医療ソーシャルワーカー協会中央 E 支部)
R3 年 10 月 19 日	河野 光香	2021 年度 第 3 回目札幌市難病医療相談会 「CIDP／ギランバレー症候群」福祉制度について (札幌市難病患者等医療相談事業)
R3 年 11 月 12 日	小林 陽子 下川 満智子	神経難病のコミュニケーション支援 (ZOOM) (神経難病の患者さんと支える人のためのサロンあうる)
R3 年 12 月 15 日	小林 陽子	第 7 回 パーキンソン病へのトータルケアを考える会 in Web 「パーキンソン病と共に生きる患者様、ご家族、支援者の皆さまが知っておきたい社会保障制度」 (協和キリン株式会社 主催)

R4年3月2日	小林 陽子	Hokkaido Parkinson' s Disease Crosstalk Symposium 2022「パーキンソン病治療における医療ソーシャルワーカーの関わり」 (武田薬品工業株式会社 主催)
---------	-------	---

4. 地域社会福祉活動

【検診や医療相談】

月 日	担当者	名 称
R3年 9月15日～17日	小林 陽子	令和3年度神経難病患者訪問検診 ～礼文町、利尻町、利尻富士町（稚内保健所利尻支所）

【研修会・学会参加】

月 日	参加者	名 称
R3年4月24日	小林 陽子 中山 宰歌 近藤 みずき	新しい倫理綱領を学ぶ研修会 (一社：北海道医療ソーシャルワーカー協会)
R3年5月19日	下川 満智子	令和3年度 東京都立神経病院「難病看護」公開講座 (東京都立神経病院 看護科)
R3年5月21日	近藤 みずき	「キャリア・ラダー研修会」 ※総合討議座長対応 (一社：北海道医療ソーシャルワーカー協会)
R3年6月5日 ～6月6日	中山 宰歌 近藤 みずき	第69回公社日本医療ソーシャルワーカー協会全国大会「ありのままの生き方支える」 (公社 日本医療ソーシャルワーカー協会)
R3年6月11日	近藤 みずき	面接技術研修 (一社：北海道医療ソーシャルワーカー協会)
R3年6月19日	河野 光香 近藤 みずき	第64回北海道医療ソーシャルワーク学会 「パンデミック時代のソーシャルワーク」 (一社：北海道医療ソーシャルワーカー協会)

R3年6月21日	近藤 みずき	令和3年度第一回高次脳機能障害支援者研修会 (北海道大学病院リハビリテーション部)
R3年6月26日	小林 陽子 河野 光香	第5回 ALS Café Web セミナー「ALS 克服への挑戦」(東邦大学医学部内科学講座神経内科学分野)
R3年7月10日	近藤 みずき	ソーシャルワーク記録 (一社:北海道医療ソーシャルワーカー協会)
R3年7月17日 ~7月18日	下川 満智子	第26回日本難病看護学会学術集会 (日本難病看護学会)
R3年8月7日	河野 光香	支部研修会「コロナ禍でのソーシャルワークについて」(一社:北海道医療ソーシャルワーカー協会中央E支部)
R3年8月28日	近藤 みずき	在宅医療ソーシャルワーク (一社:北海道医療ソーシャルワーカー協会)
R3年9月26日	河野 光香	本人の意向を尊重した意思決定のための研修会 在宅医療・施設ケア従事者版相談員研修会 (人生の最終段階における医療・ケア体制整備事業研修会)
R3年9月29日	小林 陽子	認知症高齢者の金銭管理 (札幌市中央区在宅ケア連絡会議)
R3年10月1日	近藤 みずき	ヤングケアラーの支援を考える (公社:日本医療ソーシャルワーカー協会)
R3年10月1日 ~10月31日 オンデマンド配信	近藤 みずき	ソーシャルワーク研究「誰もがができる研究発表~まずはやってみよう~」 (一社:北海道医療ソーシャルワーカー協会)
R3年10月9日 ~10月10日	小林 陽子	社会福祉士実習指導者講習会 (北海道社会福祉士会)
R3年10月23日	小林 陽子 近藤 みずき	ソーシャルワーク理論研修アドバンス編 「改めてソーシャルワーク理論を考える~理論と実践の架け橋~」 (一社:北海道医療ソーシャルワーカー協会)

R3年11月6日	小林 陽子	管理者研修アドバンス編 (一社：北海道医療ソーシャルワーカー協会)
R3年11月24日	小林 陽子	コロナ禍の入退院支援 (中央区ケア連絡会議)
R3年11月27日	近藤 みずき	実践講座「意思決定支援研修」 (一社：北海道医療ソーシャルワーカー協会)
R4年1月15日 ～2月14日 オンデマンド配 信	近藤 みずき	実践講座「みんなで考える、保証人問題とソーシャルワーク支援」 (一社：北海道医療ソーシャルワーカー協会)
R4年2月5日	河野 光香	事例検討会 (一社：北海道医療ソーシャルワーカー協会)
R4年2月11日	近藤 みずき	理論研修～入門編～オンライン研修 ※ファシリテーター対応 (一社：北海道医療ソーシャルワーカー協会)
R4年2月21日	小林 陽子	「コロナ禍におけるオンラインでのカンファレンスを考える」 手稲区在宅ケア連絡会 札幌市医師会手稲区支部
R4年2月26日	河野 光香	地区懇談会（西区・手稲区） ～コロナ禍における在宅医療を取り巻く課題についての意見交換会～ (一社：北海道医療ソーシャルワーカー協会中央E支部)
R4年3月7日	近藤 みずき	2021年度オンラインセミナー（依存症支援意識・実態調査報告および地域における依存症支援） (公社：日本医療ソーシャルワーカー協会)
R4年3月12日	河野 光香	中央E支部のつどい～機関紹介 (一社：北海道医療ソーシャルワーカー協会中央E支部)
R4年3月15日	小林 陽子	令和3年度北海道医療大学 新カリキュラム・実習（社福）説明会

		北海道医療大学 看護福祉学部臨床福祉学科
R4年3月26日	河野 光香	地区懇談会(後志地区)～コロナ禍における在宅医療を取り巻く課題についての意見交換会 (一社:北海道医療ソーシャルワーカー協会中央E支部)
R4年3月28日 (～5月22日)	中山 宰歌	令和4年度診療報酬改定説明会 (公社:日本医療ソーシャルワーカー協会)

4. 北海道神経難病研究センター主催講演会

神経難病セラピストのための座談会

1. 第36回 2021年3月18日(木) 17:30～19:00 WEB開催
「パーキンソン病患者様の姿勢や歩行に対するアプローチ
～病気と共に生きていくためのリハビリテーション～」
参加者数：15名
2. 第37回 2021年5月25日(火) 19:00～20:00 WEB開催
「働いてみて困っていること
勉強の仕方、患者さんと向き合い方、疾患予後、他職種連携」
参加者数：21名
3. 第38回 2021年7月27日(火) 19:00～20:00 WEB開催
「あなたの求める情報を教えて下さい～文字だけでは思いは伝わらないから～」
参加者数：23名
4. 第39回 2021年9月28日(火) 19:00～20:00 WEB開催
「神経難病リハの考え方と介入の仕方
①歩行②食事③患者・ご家族との関わり④自主トレ指導⑤他職種連携」
参加者数：35名
5. 第40回 2021年11月30日(火) 19:00～20:00 WEB開催
「神経難病リハ介入の工夫 ①情報共有、②基本動作・ADL・IADL、③代替コミュニケーション、④自主トレ」
参加者数：25名
6. 第41回 2022年2月22日(火) 19:00～20:00 WEB開催
「神経難病セラピストのパーキンソン病に対する評価
①歩行・姿勢・起居動作、②調理・洗濯・掃除・買い物・IADL、③発声・嚥下」

参加者数：16名

北海道神経難病ケースカンファレンス

開催なし

第10回 北海道神経難病リハビリテーション研究会講演会 WEB開催

2022年2月20日 13:30～15:00

座長：坂野康介、中城雄一

「感覚・認知的側面から見た神経変性疾患の運動障害の病態解釈とリハビリテーション」

公益財団法人脳血管研究所附属 美原記念病院

神経リハビリテーション課 課長 菊池 豊 先生

参加者：107名

2022年3月6日 11:00～12:30

座長：藤田賢一、樫村祐哉

「神経難病の構音障害の数値化とその捉え方」

東京工科大学医療保健学部リハビリテーション学科

言語聴覚学専攻 教授 生井 友紀子 先生

参加者：86名

第10回
北海道神経難病リハビリテーション研究会講演会
サテライトカンファレンス

参加費無料

日時 2022年2月20日(日) 13:30~15:00

製品紹介 トレリーFOD錠について 大日本住友製薬株式会社

特別講演

北祐会神経内科病院 理学療法科 科長 坂野 康介 先生

座長

主任 太田 経介 先生

「感覚・認知的側面からみた神経変性疾患の
運動障害の病態解釈とリハビリテーション」

講師

公益財団法人脳血管研究所付属
美原記念病院
神経難病リハビリテーション課 課長 菊地 豊 先生



視聴方法は裏面をご参照ください

本講演会は医療従事者向けの講演会となります。
一般の方はご視聴にはなれませんので
あらかじめご了承くださいませ、宜しくお願い申し上げます。

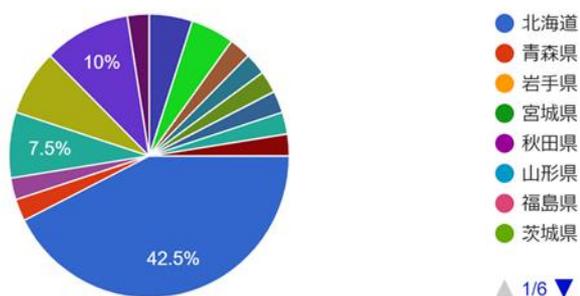


共催：北海道神経難病研究センター 大日本住友製薬株式会社

第 10 回北海道神経難病リハビリテーション研究会講演会アンケート(菊池 豊先生)

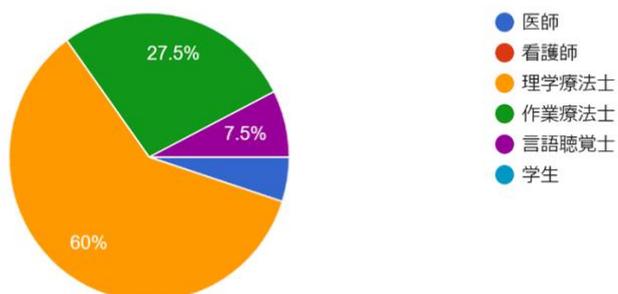
所属施設の都道府県をお答えください

40 件の回答



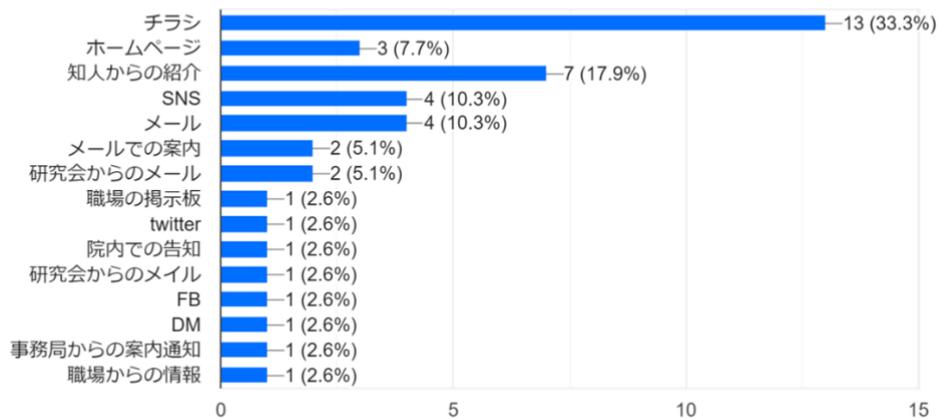
あなたの職種を選択して下さい

40 件の回答



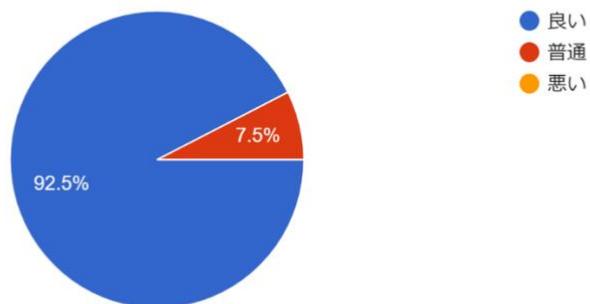
講演会を何で知りましたか？

39件の回答



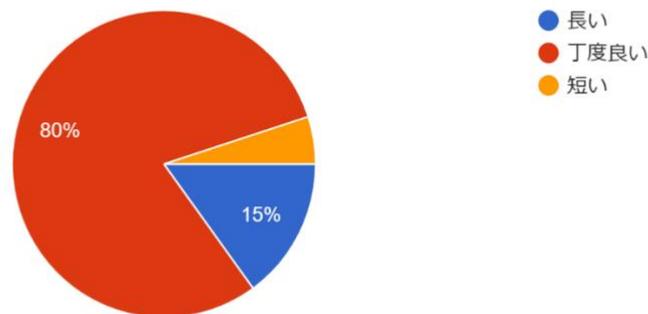
開催方法はいかがでしたか？

40件の回答



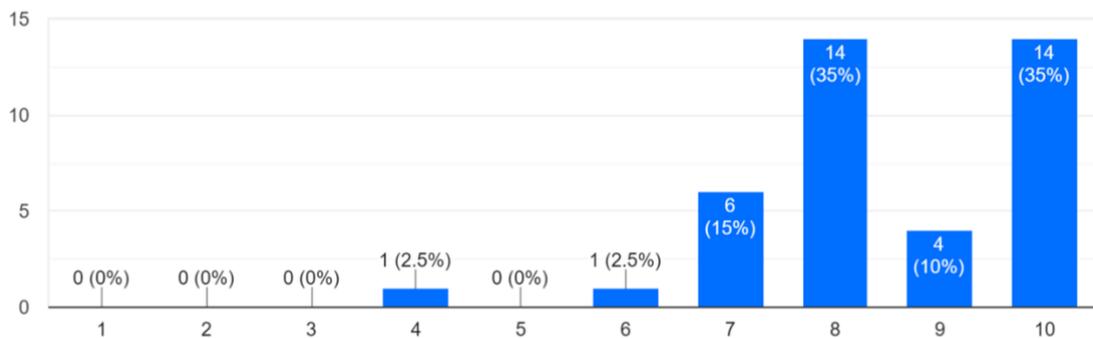
講演時間(90分のwebinar)の長さはいかがでしたか

40件の回答



講演の内容はいかがでしたか？

40件の回答



<今後取り上げてほしいテーマ・内容はありますか？>

- 進行性失語症
- パーキンソン病と栄養
- パーキンソン病とリハビリテーション（状別リハビリ、オンラインリハビリの方向性、コロナ禍のリハビリ、認知症リハビリ）
- 神経難病患者さんと地域との連携
- 神経難病患者(特にパーキンソン病)と平衡覚、固有感覚の関係性
- パーキンソン病とLSVT
- パーキンソン病のすくみ足や姿勢異常の評価・介入
- プリオン病

- 神経難病患者における日常生活上での工夫
- 多系統萎縮症、MS のリハビリについて
- 新しい薬物療法とリハビリの際の留意点など
- 視神経脊髄炎の病態とリハビリ。パーキンソン病の薬剤について
- 神経難病の終末期のリハビリテーション
- 脊髄小脳変性症の認知・高次脳機能の評価と訓練、予後予測

<開催方法について、ご意見・ご要望などを具体的にお聞かせください>

- 急遽の変更に戸惑いました。それ以外はとても良かったです
- 実技などを覗いて今後も web 開催の方が敷居が低いと感じています
- オンラインの方が参加しやすくてよかったです
- とても貴重な御講演でしたので、アーカイブ配信などがあるとより良いのではないかと思います
- 小さな子供がいるので、これからもオンラインと会場参加を選べると参加しやすいです
- 中継が途切れたり開始時に繋がらなかったりしたので、少々残念でした
- 現在の感染状況を考えるとオンラインは良いと思いました

<講演のご感想をお聞かせください>

- 分かりやすい内容で良かったし、熱心に話されていたが、少し延長されて質疑応答の時間が短かった
- 講演を聞いていて考えさせられる内容が多く、臨床に活かしていきたいと思いました。自分の視点の甘さを再確認しました
- 観察視点が興味深い
- 普段のリハビリ場面での気づきの大切さを感じました
- 臨床において神経難病の患者さんは同じ疾患であっても症状は様々であり、同じ疾患でもアプローチ方法は患者によって違いがあるため難しいと感じております。また、神経難病についての講習会も少なくなかなか研鑽する場も少ないと感じております。これまで、北海道神経難病リハビリテーション研究会さんが開催してくださる講習会は、参加したくても日時や開催場所の関係から毎回参加することはできていませんでしたが、オンラインになってからは参加しやすくなりました。いつも刺激的で参加させていただいており、

これからも参加していきたいと思います

- 感覚の観点から神経難病患者を検討することがなかったため非常に参考になりました
- 自分と患者で見えているもの、感じているものにここまで差があるのかと驚きました。

今後は、より患者の発言を意識してみようと考えています

- 今まで自分になかった考え方や、新しい知識を増やすことができよかったです
- とても難解な内容でしたが、日々の臨床に照らしやすいようなスライド作成をしていただき学びとなりました
- 今まで参加した研修の内容も、若干含まれており再確認になり楽しかったです。

青森県十和田市の神経難病の利用者が多いと以前話したかと思います。

当施設のデイケアのみですが、登録人数約 260 名です。SCD は 9 名 (3.4%)、PD (症候群と診断はないが服薬者含む) 14 名 (5.4%)、進行性核上性麻痺 2 名 (0.7%)、大脳皮質基底核変性症 1 名 (0.3%) の結果でした

- 小脳と認知面の関連性を新鮮に感じました
- 普段クローズアップされることな少ない珍しいテーマで国内外の様々な研究を引用し、また、菊池先生自身の検証や症例も数多く紹介頂き、普段学ぶことが出来ない貴重な内容でした。わかりやすく惹きつけられる講演の流れ、スライドの構成もとても勉強になりました。ただ、自身の明日からの臨床に使えるかという小脳・前庭系の障害では知覚感覚の歪みや、感覚統合の歪みが生じている想定で患者様の評価を行う、という範囲でしか活用が難しいのかな、と感じました
- SCD の認知面にフォーカスをして動作を分析していたのが面白く、興味深い視点だった。日々の臨床で患者さんと向き合うために重要となる新しい視点を得ることができた。まだ勉強中であつたので、概論や基礎的なこともあつたらよかった
- 臨床的で面白かったけど、結論や菊池さんの考えている点がいまいちハッキリしなかった印象が残りました
- とても勉強になりました
- 症例ふくめた講習会だったので凄くわかり易かったです

- 内容が難しかったです
- まだわかっていない脳の機能について、仮説、検証作業をしていることが見えて、考え方の学びにつながった
- 病態や介入効果など臨床場面の紹介があったために非常にわかりやすかった
- 大変興味深いテーマでしたが、種々の話を少し盛り込みすぎた印象を後半は感じました。質疑等の時間制約が生じたのが残念でした
- すごくタメになりました。ありがとうございます。パーキンソン病のことがもう少し聞けるかと思ったので、次回パーキンソン病がメインの回があれば是非また参加したいです
- 知識が不足している内容なので、参考になった。気付きが持てた
- 講義の部分と症例を通しての部分があり、テーマをより身近に感じる事が出来ました
- 印象的な動画が多く、時間が足りないくらいに思われました
- 事例を多く出しながらお話してもらい、イメージがつきやすく勉強になりました
やや講演時間が長く感じたのが気になりました
- 非常に勉強になりました。いろいろな視点から治療を考える重要性を学びました

第10回
北海道神経難病リハビリテーション研究会講演会
サテライトカンファレンス

参加費無料

日時

2022年3月6日(日) 11:00~12:30

製品紹介 トレリーFOD錠について 大日本住友製薬株式会社

特別講演

北祐会神経内科病院 言語療法科 科長 藤田 賢一 先生

座長

主任 樫村 祐哉 先生

「 神経難病の構音障害のリハビリテーション
～数値化とその捉え方を中心に～」

講師

東京工科大学
医療保健学部リハビリテーション学科
言語聴覚学専攻 教授 いくい ゆきこ
生井 友紀子 先生



視聴方法は裏面をご参照ください

本講演会は医療従事者向けの講演会となります。
一般の方はご視聴にはなれませんので
あらかじめご了承くださいませ、宜しくお願い申し上げます。

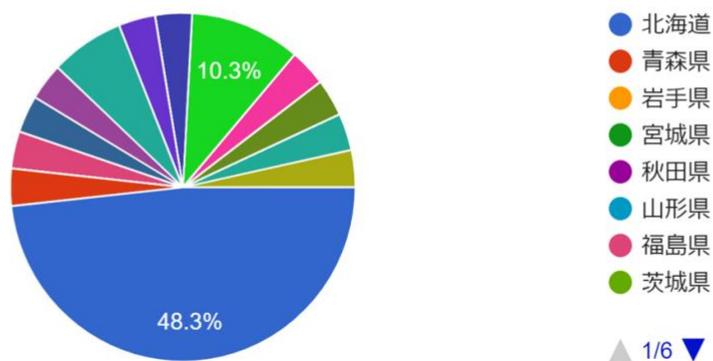


共催：北海道神経難病研究センター 大日本住友製薬株式会社

第 10 回北海道神経難病リハビリテーション研究会講演会アンケート(生井友紀子先生)

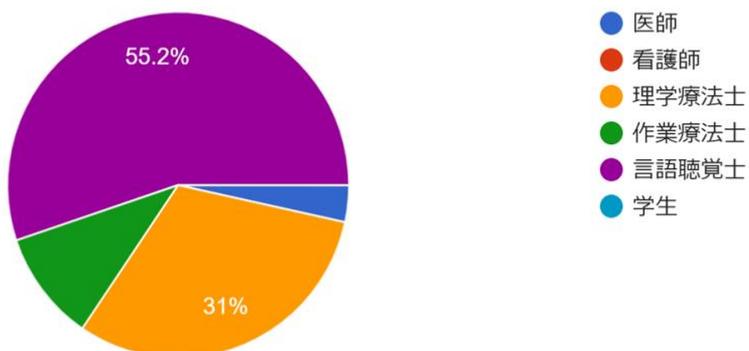
所属施設の都道府県をお答えください

29 件の回答



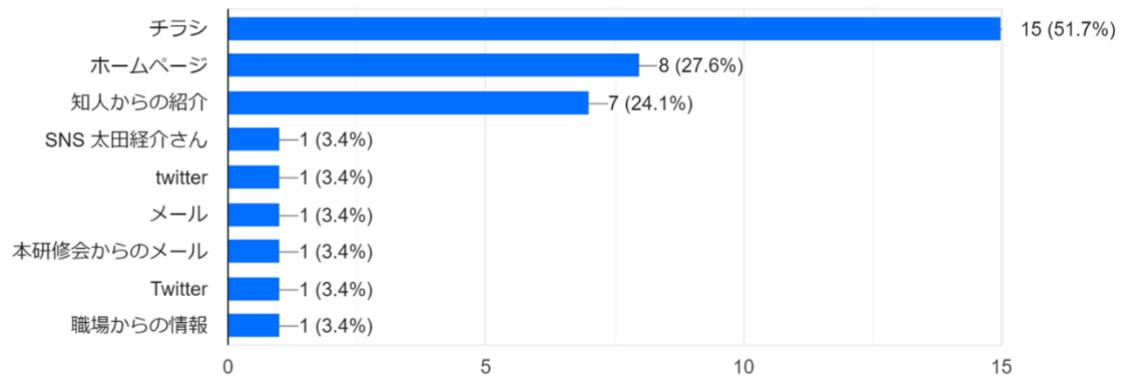
あなたの職種を選択して下さい

29 件の回答



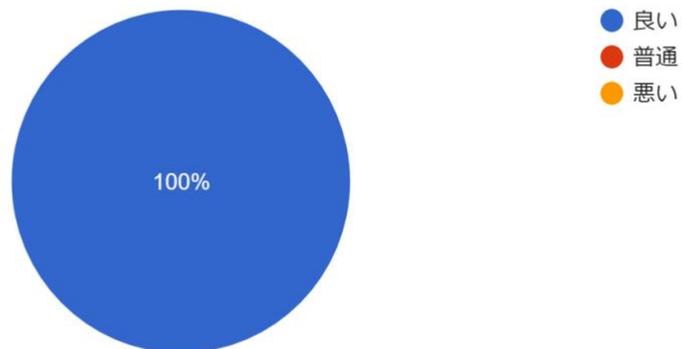
講演会を何で知りましたか？

29件の回答



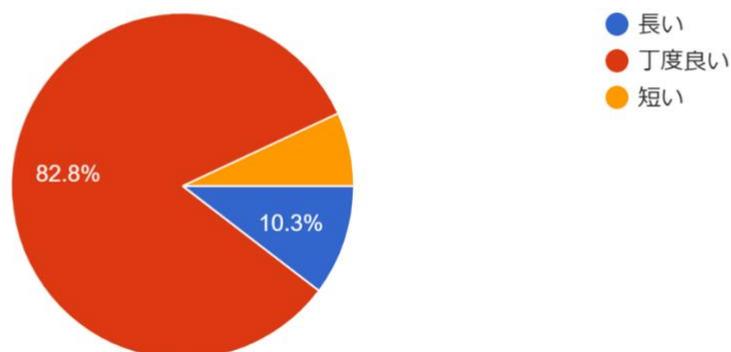
開催方法はいかがでしたか？

29件の回答



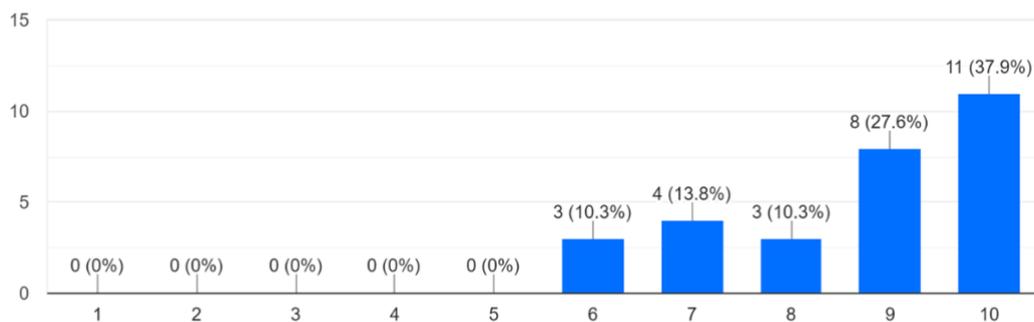
講演時間(90分のwebinar)の長さはいかがでしたか

29件の回答



講演の内容はいかがでしたか？

29件の回答



<今後取り上げてほしいテーマ・内容はありますか？>

- MSA の非侵襲的陽圧換気療法と呼吸リハビリテーション
- 神経免疫疾患のリハビリテーション（特に MS と NMO の病態の違いに着目した）
- ALS の運動療法
- 小児神経難病の移行期医療とシームレスなリハビリテーションの提供
- 嚥下障害、東京医療学院大学内田学先生のご講演を拝聴したいです
- パーキンソン病の服薬調整とリハビリについて

医師の服薬調整に必要な情報をリハスタッフが伝達することができたらいい

いな、といつも考えています。例えば無動の時間が長くなった、嚥下反射惹起が遅れてきたなど

- アシステブテクノロジー
- 高次脳機能障害
- 臨床でのリーシルバーマン法。進行性疾患と高次脳機能障害の特徴、進行性疾患の嚥下障害とその対応
- 神経難病患者における Shared decision making
- パーキンソン病の非運動障害への対応
- 病院や施設内での他職種連携と地域での多職種連携の実際
- 神経疾患（ALS など）における言語療法。各ステージにおける取り組みなど。
- 言語聴覚士として、神経難病のコミュニケーション能力や嚥下機能、高次脳機能に関する評価や訓練方法を知りたい
- パーキンソン病の誤嚥性肺炎の予防に向けた評価方法、パーキンソン病の栄養状態と身体・嚥下機能の関連性

<開催方法について、ご意見・ご要望などを具体的にお聞かせください>

- 時間帯は早いほうが良い、日曜日に実施なら尚更。午前で全てが終わるようにしたら良い
- 引き続き WEB 開催が好ましい
- 移動がなく講演が聴けるのはありがたい

<講演のご感想をお聞かせください>

- 大変おもしろかったです。PD の発声評価が患者の潜在能力を評価している可能性があることや、現場ですぐに行えるデータ計測方法の提示があり大変勉強になりました。
- 生井先生は専門学校時代に外部講師としてお世話になった以来でした。私も前職でパーキンソン病の方のリハビリを多く行っていました。発話特徴を数値化することで見えてくる本当の特徴、可能性を知る方ができ有意義な勉強会となりました。
- 臨床現場から臨床研究の取り組みでの多数の示唆をいただきました。
- 神経難病の客観的評価法を知ることができてよかったです。新しい知見をた

くさんしれて大変満足しています。

- あらゆる事象も、知識と工夫することで客観的数値をもって評価できると感じました。
- 専門外なのでついていけない部分もありましたが、臨床データでそこまでわかるのだなと感心しきりでした。
- いつもは、なかなか嚥下や発声について考えることがなく、パーキンソン病の方であっても、発声能力はあるということがわかりよかった。また、発声の特徴としてかすれがあるということがわかったので良かった。
- 身近にある器具を使って評価、のないようなら更に良かった
- 症状の変化を数値化してとらえる取り組みを知ることができ、勉強になりました。
- 内容の濃い90分でした。もう少し聞きたかった。
- どのように数値化したら良いかという視点がわかったが、その数値をどのように解釈して臨床に取り入れていくか、もう少し実際に行っていることがわかると更に良かった。
- 生井先生の文献は学生時代から参考にさせていただいて、直接話が伺えるなんて感無量です。数値化することに興味があり、聞いていましたが、自分にもできるのか？という不安はありました。
- 盛りだくさんの内容で勉強になりました。
- 神経難病の方のリハビリをすることが多く、凄参考になりました。
- 神経難病の高温について細かく教えていただきありがとうございました。日々の臨床に繋がることばかりで大変勉強になりました。学んだことを臨床に活かしていきたいと思います。
- 発声に対して普段はあまりアプローチすることはなかったのですが、今回の講演で自身でも可能な限り治療を行っていきたいと感じました。非常に勉強になりました。ありがとうございました。

<北海道神経難病リハビリテーション研究会サテライトカンファレンス>

清水俊夫先生（東京都立神経病院 脳神経内科部長）

「パーキンソン病、ALSをはじめとする神経難病における栄養障害の意義と対策」2021/9/9

北海道神経難病リハビリテーション研究会 サテライトカンファレンス

パーキンソン病ライブ配信講演会

日時 2021年9月9日（木）18:30~19:30

製品紹介 トレリーFOD錠について 大日本住友製薬株式会社

特別講演 18:30~19:30

座長 北海道神経難病研究センターセンター長 森若文雄 先生

『パーキンソン病、ALSをはじめとする 神経難病における栄養障害の意義と対策』

演者 東京都立神経病院 脳神経内科 部長 清水俊夫 先生

視聴方法は裏面をご参照ください

本講演会は医療従事者向けの講演会となります。
一般の方はご視聴にはなれませんので
あらかじめご了承くださいませ、宜しくお願い申し上げます。



共催：北海道神経難病研究センター 大日本住友製薬株式会社